



鶴沼皇大神宮 例大祭

2017/8/17 松下 撮影

あまり実感がないが世の中の景気はほぼ順調に進んでいると報道されている。

しかし確実に貧富の差は開いて、一握りだけの富裕層とその日暮らしがやっとの層と大多数の実感のない中間下位層とに分かれるだろう。

この中間下位層こそ住居費・教育費などに追われながらどうにか中間層に留まっていると錯覚しているが、実はなかなか浮上の苦しい問題の部分である。

これと同じことが会社にも言える。とくに中小企業の多くは、どうにか食いつないでいる中間下位層である。これは会社の70%は赤字であるという統計でも分かる。

さて表題の会計で会社を強くできるか？の問いであるが、結論は出来ると思うし、証するデータもある。

会計で会社を強くする。

会社の安全性、強靭さを示す指標に「自己資本比率」がある。高ければ高いほど倒産しない会社ということになる。普通30%は欲しい。何が起きるかわからない現在はせめて50%は確保したい（総資本に対して）となる。

それでは自己資本なるものはどうして拡充できるのか。それは資本金であり過去に積み上げた利益の累積が主なるものである。利益の積み上げが会社を強靭化するのである。利益は法人税課税後のものであるので税を払ってのことでほとんど税を払ってない会社は安全性が乏しいのである。

会計がしっかりしていないと、つまり過度な節税は会社を弱体化させるということ、不況期にも「備えあれば憂いなし」で動じない会社をつくりたい。



「税務行政の将来像 ～スマート化を目指して～」について

■はじめに

6月23日、国税庁より「税務行政の将来像～スマート化を目指して～」の発表がありました。

これは今後の税務行政に関する中長期的な将来像として①納税者の利便性向上②税務行政の効率化の2本の柱を実現するためのイメージを示したものです。

おおむね10年後の将来像として、その実現にはAI（人工知能）技術等の活用が想定されています。なにかと話題のAI技術ですが、国税庁ではどのような形で、税務行政へのAIの活用をイメージしているのでしょうか。

今回は、国税庁の掲げる税務行政の将来像、さらに、すでに海外で導入されている先進的な取り組みから、いくつかポイントを絞ってご紹介致します。

■①税務行政の将来像（スマート税務行政）～納税者の利便性の向上～

【1. カスタマイズ型の情報配信】

- ・ポータルサイトやメッセージボックスを通じて、納税者個々に必要な税情報をタイムリーに配信する。
- 例) 不動産を売却した方への申告の案内などを、案内が必要と思われる納税者に対して提供する。

【2. 税務相談の自動化】

- ・メールやチャットを活用し、相談チャネルの多様化を図る。また、相談内容をAIが分析し、最適な回答を提供し、その回答を相談者が評価できるようにすることで、回答の精度を向上させる。



【3. 申告・納付のデジタル化の推進】

- ・ポータルサイトから納税者が入手できる情報（生命保険料データ等）を増やし、確定申告や年末調整の電子化を促進、納税者の利便性を向上させる。
- ・各行政機関と国税機関、地方税機関の連携を強め、添付書類の削減や申告手続きの簡素化を進める。
- ・納税方法については、ダイレクト納付、クレジットカード納付の仕組みを整備し、電子納税の促進を図る。

■②税務行政の将来像（スマート税務行政）～課税・徴収の効率化・高度化～

【1. 申告内容の自動チェック】

- ・申告内容の評定作業にAIを活用し、評定関連データの自動収集と自動分析によって効率化を図る。
- ・自動チェック機能により把握された申告内容の疑問点は、ポータルサイト等を通じて個々の納税者宛てに照会し、疑問点の解明を迅速かつ効率的にする。

【2. 軽微な誤りのオフサイト処理】

- ・申告内容に軽微な誤りがあった場合、システムから自動的に納税者へ是正を依頼することで、効率的に多くの納税者との接触を可能にする。

【3. 調査・徴収でのAI活用】

- ・調査後の更正決定通知書等をAIにて書類作成し、e-Taxメッセージボックス等を通じて納税者へ通知する。
- ・公売財産の適正な価格を算定するため、インターネット上の取引事例や画像データを自動収集し、ビッグデータを活用した判定と分析をAIにて行い、迅速かつ精緻な財産評価を行う。

■海外税務当局の取組事例

【1. AIを活用した質問応答システム（シンガポール）】

- ・シンガポール税務当局のホームページ上では、納税者の質問に対して自動的に回答がなされるバーチャルアシスタント「Ask Jasmine」の試行版が導入されている。
- ・「Ask Jasmine」は自然言語を理解する機能、そして質問と最も関連性の高い情報を検索する機能を活用した

AI で、納税者が入力した質問を理解し、あらかじめ用意されている回答例のデータベースから最適な回答を探し出して提示する。

- また、AI の回答の精度を利用者にて評価するボタンも設けられており、利用者の反応により当該回答が適切なものであったかをシステムが自ら学習し、回答の精度が向上していく仕組みとなっている。

【2. 申告書の集中処理と簡易な審査の自動処理 (カナダ)】

- カナダでは、電子化の推進等により税務署での窓口サービスの重要性が低くなってきたことなどを理由に、税務署における窓口サービスを取りやめており、納税者は申告書を電子的に提出するか、または全国 5 か所の「タックスセンター」と呼ばれる施設に、直接送付することとされている。
- なお「タックスセンター」では、申告書の集中的な処理、及び調査に至らない程度の簡易な審査を行っている。



【3. 税務署窓口における現金納付の廃止 (オーストラリア)】

- オーストラリアでは、納付手段の多様化が図られたことを理由に、1999 年（平成 11 年）以降、税務署窓口における現金納付は廃止されている。このため 2015 年（平成 27 年 7 月から翌年 6 月）における電子納付（クレジットカード納付など）の利用割合は 96.5%となっている。

【4. 滞納者との接触方法の自動判定 (アメリカ)】

- 滞納整理方針（滞納者との接触方法（電話または対面）又は滞納処分の執行の見合せ）を、過去の徴収実績等からシステムが自動的に判定している。

- また、対面により納税者と接触することと判定された事案は、納税者の所得階級や滞納金額等、更に地理的な条件も踏まえ、各地域を担当する徴収職員のグループへ自動で振り分けられるようになっている。



「税務行政の将来像」 2017年版
～スマート化を目指して～

環境の変化

ICT・AIの進展	マイナンバー制度の導入	経済取引のグローバル化
定員の減少と申告の増加	調査・徴収の複雑・困難化	

検討の目的

納税者の理解と信頼を得て適正な申告・納税を確保していくため、税務行政の透明性の観点から目指すべき将来像を明らかにし、それに向けて着実に取り組んでいくことが重要。

将来像

スマート税務行政
(ICTの活用による納税者の利便性の向上と事務運営の最適化を通じ、納税者の信頼を確保)

ICT社会への的確な対応 税務手続の抜本的なデジタル化	納税者の利便性の向上 (スムーズ・スピーディ)	課税・徴収の効率化・高度化 (インテリジェント)	重点課題への的確な取組 国際的租税回避への対応
税務署に出向かず簡便に手続が完了	カスタマイズ型の情報配信	申告内容の自動チェック	富裕層に対する適正課税の確保
	税務相談の自動化	軽微な誤りのオフサイト処理	大口・悪質事案への対応
	申告・納付のデジタル化の推進	調査・徴収でのAI活用	

情報システムの高度化
内部事務の集中処理
地方公共団体等との連携・協調

※ この将来像は、情報システムの高度化、外部機関の協力を前提として、現時点で考えられるおおむね10年後のイメージを示したものである。その実現に向けては、e-Taxの使い勝手の改善等を通じた申告・納付のデジタル化の推進により、納税者の利便性の向上とともにデータ基盤の充実を図り、AI技術等を取り入れながら、段階的に取り組んでいく。また、情報システムのユーザーとなる納税者のニーズを重視した検討を行っていく。

「税務行政の将来像」の概要 -国税庁資料より

(※ご紹介した内容はあくまで現時点での将来イメージであり、実施が確定したものではありません。)

【お知らせ】 さわやか土曜塾の日程について

人生・家庭・職場の羅針盤

さわやか土曜塾では最高道徳の格言を学んでおります。9 月と 10 月の開催予定は下記のとおりです。なお普段は毎月**第二土曜日**に実施しておりますが、**10 月は 10 月 21 日 (第三土曜日)開催予定**となっておりますのでご注意くださいませ。

** 9 月のさわやか土曜塾 **日時 : 9 月 9 日(土) 10:00~11:30

** 10 月のさわやか土曜塾 **日時 : 10 月 21 日(土) 10:00~11:30

場所 : 辻堂図書館 会議室

会費 : 500 円

詳細は雨谷・志村(智江)まで

読書の時間



品性・経営・人生 (9)

(田原道夫 著/北進社 印刷 (非売品))

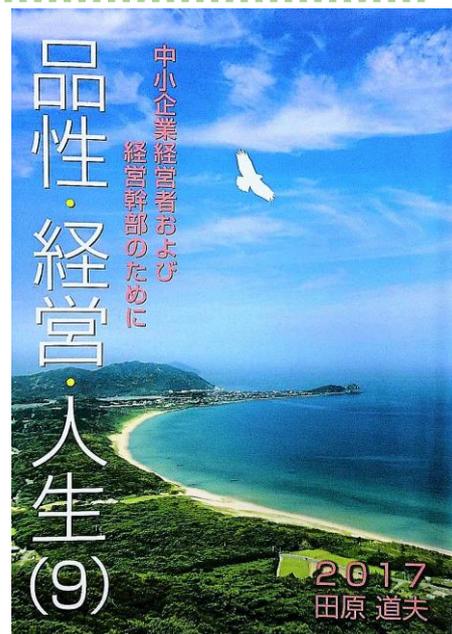
本書は著者が発行しているメールマガジンを1年分まとめて著書にしたものです。本メールマガジンは経営をメインテーマに、世界中で起こる事象に対し廣池千九郎が提唱した『道徳経済一体思想』や偉人の言葉と照らし合わせ、問題の解決方法を探ろうとするものです。今回は本書での一節をピックアップし、ご紹介したいと思います。

●鍵山秀三郎氏 (イエローハット創業者) に学ぶ『仕上げ』

【新製品というのは自分の店に並べたとたんに新製品ではなくなり、いっぺんに魅力を失ってしまう。それはなぜかという、いつまでも旧サービスの古い売り方、自分の慣れた方法で売ろうとするからです。それよりか、ずっと前からお店にある製品でも、それを新しい売り方、新サービスで売ったほうが、魅力があるのでございます。】という鍵山氏の言葉を引用し、商品というのは良い物を仕入れるのも大事だが、それを売ろうとする

意思を商品に吹き込む事 (仕上げ) も同様に大事であると筆者は説いています。確かに、どんな新製品や良い商品でもホコリをかぶっているモノを買おうとする人は少ないと思います。それよりも例えば手入れが利いた綺麗な商品だったり、今までとは違った視点での商品の紹介だったり等、その商品を色々なアプローチでお客さんに見せることがとても商売の上では大事なことだと思えます。

このように色々な経営課題や世界での事象に対して、道経一体思想の立場からどのように考えるべきかを説いています。(佐藤)



【参考】「品性・経営・人生」無料メールマガジン (発行者: 田原道夫) 申込フォーム <http://www.hinkeijin.jp/>

(※書籍版に関するお問い合わせは弊所までお気軽にご連絡くださいませ。)

*** **

問はず

がたり



「多すぎず少なすぎず」スウェーデンのしあわせ観

北欧スウェーデンは消費税率 25%と極端に高いが、何から何まで面倒をみてもらえる社会が行き届いている。ほどよい社会と、多すぎず少なすぎずが根底にある精神構造が国民にあるからだろう。

日本流に言えばほどよい「適当」(いい意味の) あまり欲張らない精神だろう。そう、「足るを知る」の意味にも近い。調和の取れたバランスが大切で共生社会の根本である。

*** **

発行・編集 宇久田進治税理士事務所/株経営センターグロウ

〒251-0042 藤沢市辻堂新町 1-1-2 クロスポイント湘南 6F

TEL 0466 (36) 0627

FAX 0466 (33) 4892

URL : <http://www.ukuta.net/>

** 編集部では皆様に喜んでいただける紙面にしたいと思っております **
お読みになったご感想、お読みになりたい記事等のご意見をお聞かせくだされば幸いです。
(e-mail : matsushita@ukuta.net 又は上記 FAX でお願いいたします。)